

2025年度 研修実施計画

1 研究主題について

ともに学ぶ楽しさを味わい、主体的に活動するこどもをめざして
～こどもから出発する授業～

2 主題設定の理由

本校では、2020年度から社会科、2023年度から算数科を窓口にして、「ともに学ぶ楽しさを味わい、主体的に活動するこどもをめざして～こどもから出発する授業～」という主題を掲げ、こどもたちが「ともに学ぶ楽しさを味わい、主体的に活動する」ためには何が重要になるのかを考え研修を進めてきた。ここでいう「ともに学ぶ楽しさを味わう」とは、課題解決をはかるため、自分の考えの根拠をもとに、なかまと思考を共有・比較することを通して学びを深め、広げていくことである。このような学びを通して、こどもたちが「わかった」「できるようになった」「新しい考え方を知ることができた」と、ともに学ぶことの楽しさを感じることができると考えている。「主体的に」とは、こどもたち自身が学ぶことに興味や関心をもち、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげようとすることである。そしてその実現に向けた手立てとして「根拠をもとに、一人ひとりが考えをもつこと」「考えを伝えあい、ともに学びあうこと」「課題解決に向けて筋道立てて考えること」を重点課題に据えてきた。そこから見えてきた重要な視点と成果について以下のように整理することができる。

- ・「根拠をもとに、一人ひとりが考えをもつ」ためには、「魅力ある資料」や「思考が始まるような学習課題」の提示を工夫することや、学びを支える「基礎・基本の定着」に立ち返ることが重要であり、それらの手立てを講じることで、こどもたちは「一人ひとり考えをもつ」ことができるようになってきた。
- ・「考えを伝えあい、ともに学びあう」ためには、ICTを活用したり、ペア・グループといった協働的な学習をしたりすることが重要であり、教師が明確な意図をもって授業に取り入れることで、「考えを伝えあおう」とするこどもの姿が見られるようになった。
- ・「課題解決に向けて筋道立てて考える」ためには、見通しをもたせることが重要であり、考えを説明するためのモデルを示したり、学習用語を意識的に使わせたり、操作活動を充実させたりすることで、説明しようとするこどもの姿が増えた。

一方で、こどもたちの自分の考えをもつことができずに学びに参加しにくい姿や、ペア・グループ・全体での学習において考えを伝えあうだけになってしまう姿、伝えたい気持ちの方が強く聴くことが難しい姿も見られた。これらの姿が示していることから、こどもたちは「ともに学ぶ楽しさ」を味わい切れておらず、「主体的」に活動することをさらに活発化できる余地が残っていると捉えることができる。そして、課題になることの中心がどこになるのかという視点で見直したとき、こどもたちの立場に立っても、教師の立場にたっても、ともに「学びあう（聴きあう）」ことに課題があると考えた。

こどもたちが学びあう（聴きあう）授業を行っていくうえで必要なのは、こどもたちが主体的に学びに向かい、こどもたちが聴きたいと感ずることができている状況を意図的につくり出すことができるかという視点である。「学びたい」「考えたい」「聴きたい」と、こどもたちが感じているその状況こそが、こどもたちが「学びの主体」であることの証でもあると捉えられる。そして、その

状況を意図的につくり出そうとすることこそが、「こどもから出発する」ということであると考えられる。こどもから出発する授業を目指すうえで重要なことは、こどもたち自ら「問い」を立てたり、「課題意識」をもったりするということである。教師は、こどもたちが「どのように学ばよいか」というこどもの目線で、授業改善に臨む必要がある。そしてそれは、算数科に限った話ではなく、全教科にまたがっていくものだともいえる。そこで今年度は、前年度までの算数科を窓口にした研修に「国語科」も加え、窓口を広げ取り組んでいく。「国語科」にした理由は、授業をこどもから出発させ聴きあううえでは、語彙や言葉、話し方（内容）や聴き方を身に付けることが重要であり、それらを支えるのは国語の力であると考えたためである。

以上のことから、今年度は「学びあう（聴きあう）」ことを捉え直し、学びあう（聴きあう）こどもの姿とはどのような姿なのか、学びあう（聴きあう）こどもたちの姿を出させるにはどのような手立てが有効なのかを整理することを中心に据え、研修主題を引き続き「ともに学ぶ楽しさを味わい、主体的に活動するこどもをめざして～こどもから出発する授業～」と設定し研修を進めていく。

3 めざすこどもの姿

低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりの中で、自分の思いや考えをもつことができる子。 ・自分の考えを伝え、人の話を聴くことができる子
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりの中で、自分の思いや考えをまとめることができるようになる子 ・自分の考えを説明し、人の考えと自分の考えを比べながら聴くことができる子
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりの中で、自分の思いや考えを広げることができるようになる子 ・自分の考えを説明したり、人の考えと自分の考えを比べながら聴いたりして、よりよい考えを導き出せる子

4 「読み取る」「かく」「学びあう」の学年部別目標

	読み取る	かく	学びあう（聴きあう）
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章にかかれていることを理解するように読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えをかく。 ・順序を考えながら自分の思いや考えをかく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴き手を見て、最後まで文の形で話す。 ・理由をつけて話す。 ・話し手を見ながら聴く。 ・友だちの考えに質問をする。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章に書かれていることを理解し、必要な情報を選び出しながら読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料などを用いて自分の考えを書く。 ・順序よく自分の思いや考えをかく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴き手の反応を確かめながら順序よく話す。 ・資料などを用いながら理由をつけながら話す。 ・話し手を見て反応しながら聴く。 ・自分や友だちの考えと比べながら聴く。

高学年	<ul style="list-style-type: none"> 文章に書かれていることを理解し、必要な情報を選び出したり、複数の文章を比較したりしながら読む。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に応じて、資料などを効果的に用いて、自分の考えをかく。 筋道を立てて自分の考えを簡潔に分かりやすくかく。 	<ul style="list-style-type: none"> 聴き手の反応を確かめながら筋道を立てて順序よく話す。 資料を効果的に用いて理由をつけながら説明する。 友だちの考えを理解しようと、話し手を見て反応しながら聴く。 自分や友だちの考えを比べて、共通点や相違点を考えながら聴く。
-----	---	---	--

5 研究内容

「ともに学ぶ楽しさを味わい、主体的に活動するこどもをめざして～こどもから出発する授業～」の実現のために、以下3つの柱を掲げて研修を進めていく。

- ①主体的に課題解決に向かうことができる学習の手立て
- ②考えを伝えあい、ともに学びあう学習の手立て
- ③学びあえる（聴きあえる）関係づくり

(1) 主体的に課題解決に向かうことができる学習の手立て

こどもの言葉による学習課題（めあて）の設定とふり返り

「めあて」とは、教師のねらい（本時の目標）を子どもの立場で示したもの。「問題」や「課題」となる場合もある。

「ふり返り」とは、「めあて」「問題」「課題」に立ち返り自己評価を行うこと。上記の視点でふりかえることでその後の学習につながられるようにする。

こどもたちが主体的に課題解決に向かうためには、「こどもから出発する」ことが重要であることを念頭に、こどもの言葉でめあてや課題、問いを設定することを意識する。そして、新たに深めたいこともこどもたちから出でくるようなふり返りを意識して行う。（詳細は後述）

魅力ある資料の提示や見通しのもてる課題の提示

こどもが「おもしろそうだからやってみようかな」「これなら考えられそう」と感じることもまた、主体的に課題解決に向かうことにつながる。こどもたちの実態を見極めながら資料や課題の提示を工夫して行う。

- ・国語科なら感想からいくつか拾い上げ、全体に問い返す。
- ・算数科なら、日常生活に即した問題場面の設定をする。 など
- ・単元を通した目標（こどもがめざすゴール）を明確に示す。

既習内容のふり返りと活用

授業冒頭で既習内容をふり返る時間の確保をしたり、教室に「学びの足跡」として掲示したりすることで、いつでも確認できるものがある環境を整える。

(2) 考えを伝えあい、ともに学びあう学習の手立て

国府小学校における学びあうとは

「ペア」「グループ」「全体」それぞれの学習形態において、子どもどうしがそれぞれの思考を共有・比較する（伝えあう・聴きあう）ことを通して、考えを広げ、深め、変える（ようにする）こと。

学びあい（聴きあい）を中心に据えた授業づくり

子どもたちが学びあう（聴きあう）ためには、子どもたちが学びに向かっているありのままの姿を丁寧に見取ること、ひいては、どこで学びが生じているのか（または停滞しているのか）を見極めることができるかが重要である。

- ・子どもが活動し始めたタイミングをみる。
- ・子どもの言葉に丁寧に耳を傾ける。
- ・つぶやきを見逃さない。 ※雑談・余談は指導する。

【ペア・グループ活動のねらいの明確化】

子どもたちの中に迷いが生じた時、新しい気づきが出た時、考えを広げたいとき、わからなさを共有したいときなどに、ペア・グループ活動のねらいを明確にして授業に取り入れる。

- (例) ○自分の考えを確かにして深めるために。(自信)
○他の考えに気づき、思考を広げるために。(ヒント)
○考えの相違点・共通点を聞きあうことで思考を深めるために。(比較)
○考えを出し合い協働して解決するために。(協働、練り上げ)
○新たな考えを創り上げるために。(新たな発想)

※考えがもてない子どもも授業に巻き込む。「何が分からないのか」「どこまで分かったのか」「どう考えようとしたのか」の意見も全体で共有して学びあいにつなげる。

【学習形態の工夫】

・各学年の単元目標（つきたい力）や学習内容・学習課題に応じて、多様な学習形態を工夫し、必要な場面や指導内容に応じて選択する。

○個別学習 ○ペア学習 ○グループ学習 ○一斉学習 ○協働相手を選択

【ICT機器の活用】

学習内容や学習課題に応じて ICT 機器を効果的に取り入れる。子どもたちにただ使わせるのではなく、明確な意図をもって活用することが重要である。

- ・思考ツールを活用して、共通点や相違点などを整理したり、考えを広げたりさせて、それぞれの考えを視覚的に整理させて話しあわせる。
- ・「他者参照」のためにスプレッドシートなどを活用し、学びの進捗状況を確認する。
- ・共同編集機能を活用し、「全体」「ペア」「グループ」の中で、互いが同時に共有しながら学びを進めていく。

筋道を立てて自分の考えを説明する

聴きあうためには、考えや思いを伝えなければいけない。そして伝えることを通してまた聴く力が育まれていく。この「聴く→伝える→聴く→伝える」サイクルを回していくうえで、「伝えること」の指導もまた重要である。自分の考えを伝える際に、まずは以下のような話型の例を示

すなどをして、筋道を立てた説明の仕方を意識させる。

- ①「〇〇が～だったら、□□は、…」(類推的な考え)
- ②「〇〇のときも、□□のときも、△△のときも～だったから、☆☆も…」(帰納的な考え方)
- ③「〇〇は～だったから、□□は(も)、…」(演繹的な考え方)

【学習用語の活用】

問題解決までの過程を言葉や数、式、図、表などを適切に用いて説明させる。また、算数科では、学級ごとに既習の算数用語カードを用意し、教室掲示や授業内でのヒントカードとして活用する。

(3) 学びあえる(聴きあえる)関係づくり

「わからない」が言える環境づくり

こどもから授業を「問い」や「疑問」から授業を始めるにあたっては、「問い」や「疑問」の声自体を受け入れてもらえる環境が必要である。すなわち心理的安全性が保障されている学習環境でなくてはならない。それは、「わからない」といえる環境であり、この関係づくり・仲間づくりについては、人権・特別支援教育部の目標とも互いに関連させながら、日ごろからの「わからない」と言えることを価値づける意識をもって取り組んでいく。

6 研究方法

(1) 全体研究授業

【全体研究授業】

国語科 or 算数科…1本 人権…2本 を実施。

【研究授業にかかわって】

- ・自習及び支援体制を整え、全職員が授業を参観する。
- ・事前検討会は学年部を中心に行う。ただし、授業者が希望した場合、自主学習会で実施する。
- ・教育委員会教育指導課より講師を招聘し、事後検討会を実施する。参観者から出された課題をもとに、授業改善に向けて全体で話しあう。「自分だったら」という視点で自身の今後の授業改善に繋げていけるようにする。
- ・全体研究授業を実施しない学年は、学年部別研究授業を実施する。
- ・全体研究授業、学年部研究授業をしない学級においても、国語科、算数科において年間1本は指導案を作成し、授業改善に努める。
- ・全学年とも指導案は細案とする。

(2) 研究成果の検証

- ・学期ごとに実践を振り返り、こどもの姿から教師の働きかけについて、成果と課題を考察する。
- ・学習に関するアンケートを各学期に1回ずつ実施して、こどもの意識面の実態把握を行う。
- ・全国学力学習状況調査やスタディ・チェック等の分析を全教職員で行う。分析結果をもとに本校こどもの課題を確認し、授業改善をはかる。
- ・各学期のたしかめのテストに取り組み、学力の伸びや、各学年における課題単元をつかんで授業改善をはかる。

(3) 各種研究発表会及び研究会への参加と還流報告会

- ・ 鈴教研委託発表会や各市町の研究発表会への参加を、教職員全員で行う。

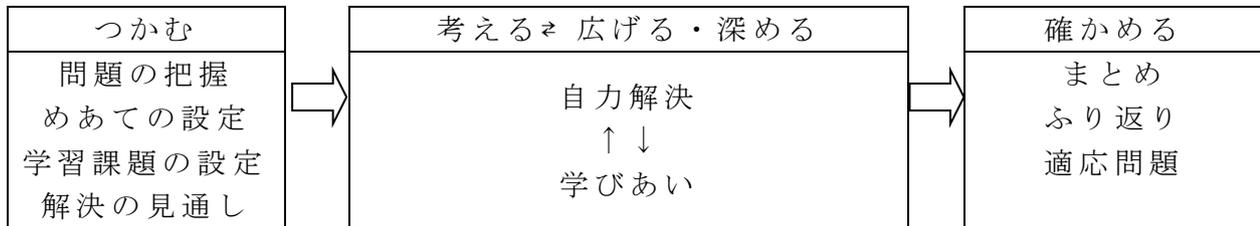
(4) 授業力向上にむけて

- ① 授業力 UP5、国府小学校授業づくりの十か条プリントをもとに授業計画を立てる。

国府小 授業づくりの十か条

- 1 条 不必要なものは片づけて、授業を開始すること
 - 2 条 時間通り始めて、時間通りに終わること (タイムマネジメント)
 - 3 条 めあて・学習内容・まとめ等を明確に示すこと
 - 4 条 1 指示 1 動作 指示は短く的確にすること
 - 5 条 「自力で考える」時間を確保すること
 - 6 条 理由や根拠をかいたり、伝えたりする場の設定をすること
 - 7 条 ペアやグループで話しあう時間を確保すること
 - 8 条 こどもの発言を不必要にくり返さないこと
 - 9 条 こどもの考えをほめること、発言を認めること
 - 10 条 45 分間の中で、ふり返りの時間を確保すること
(評価基準をもとに、ふり返りの評価を行うこと)
- 備考 1 こどもは黙って挙手し、呼名後「はい」と返事。
備考 2 こどもを呼名する際、教師は必ず敬称をつける。

② 授業の流れモデル



【つかむ】

- ・ こどもたちから出た問いやこどもたちの知的好奇心を高めるような問題、身近な生活に関する必然性のある問題などを提示する。
- ・ 本時の目標にそつためあてや学習課題を設定する。
- ・ 既習内容を使って考えることができないか解決の見通しをもたせる。

【考える・広げる・深める】

- ・ 必要に応じて学習用語などの既習内容をヒントカードとして提示し、自力解決の支援をする。
- ・ 思考ツールを活用して、自分の考えを整理させる。
- ・ 操作活動を取り入れて思考を表現させることで理解を確かなものにさせる。
- ・ 自力解決で答えを導き出せなかった場合でも、分からなかったことや分かったところまでをかかせる。

- ・分からなかった、考えをもてなかったというこどもの声を出発点に話合わせていく。
- ・こどもの発言を他のこどもに再度説明させたり、補足させたりしながら、こどもたちの発言を繋いで練り上げさせる。

【確かめる】

- ・まとめは、発達段階に応じて、教師と同じ言葉でまとめたり、穴埋めの言葉を埋めさせて確かめたり、指定されたキーワードを用いて自分の言葉でまとめたりさせる。
- ・ふり返りは、以下の視点で書かせる。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ①分かったこと、気づいたこと ②分からなかったこと ③疑問に思ったこと ④これから気をつけたいこと ⑤友だちの考えを聞いて思ったこと ⑥次にやってみたいこと |
|---|

ふりかえり の書き方
今日、～について考えました。
①分かったこと、気づいたこと ②分からなかったこと ③ぎもんに思ったこと ④これから気をつけたいこと ⑤友だちの考えを聞いて思ったこと ⑥次にやってみたいこと
など 

ノートの表紙の裏に貼って、いつでも確認できるようにする。

※「めあて」と「ふり返り」や「問題・課題」と「まとめ」は正対しているかどうかには気をつけること。

※ただし、適応問題をふり返りとすることもある。

- ③ 年度初めに全学年でノートの書かせ方の共通理解をはかる。その後は定期的に学年や学年部で、こどものノートの交流をはかる。

【共通理解（指導）事項】

- ・ノートには日付とページを必ず入れる。
- ・直線は必ず定規で引かせる。
- ・1マスに1文字を書かせる。（小数点は罫線の上）
ただし、桁数の多い数に関してはこの限りではない。
- ・分数の書き方については、文章中は1マスに書き、計算式の場合は縦に2マス使う。
- ・行間をあけ、ノートはゆったりと使わせる。
- ・「めあて」は青鉛筆、「まとめ」は赤鉛筆で囲む。
- ・ふり返りは、ふり返り（㊟）とし、次の行からかく。
（ふり返りは、文章のみにこだわらない。）
- ・ポイントや重要な学習用語などは赤鉛筆で記入する。
- ・問題文は、文章量に合わせて、コピーを貼ったり書かせたり臨機応変に対応する。（書かせる場合は、問題文を鉛筆で囲ませる）
- ・「思考の流れ」を言葉、式、図、表、数直線などで表す。
- ・ふり返りは、感想ではなく、わかったことを自分の言葉でまとめさせる。
必要に応じてキーワードを提示したり、適用問題に置き換えたりしながら、ふり返りをさせる。

8 学習の基盤となる力を育む取り組み

(1) 基礎基本の定着に向けた取り組みについて

①基礎学習タイム

授業はじめの5分間で「読み上げ計算シート」「百マス計算」などで計算の反復練習をして、基礎学力の定着をはかる。記録は蓄積して、伸びを可視化する。

②家庭学習の充実（自主学習プリントコーナー）

家庭学習強化週間を設け、こどもの習熟度に応じた課題を選択できるようにする。

(2) KOUタイム・朝の学習・読書について

	朝の読書	KOUタイム・朝の学習
目的	本に親しみ、読書の習慣を身に付け、言語力・思考力・集中力をつける。 (小説または字が多い本に限定)	・中、高学年 国語モジュール学習(15分×3日) ・低学年 算数・国語の基礎基本の定着
日時	火・木 8時20分～8時35分までの 15分間	月・水・金 8時20分～8時35分までの 15分間
内容	自分の席で、自ら選んだ本を静かに読む。 一人2冊本をもっている状態が基本 2冊読み終わっても、その本を読み続ける。	・国語(漢字・読み書き・ローマ字) ・読むYOMUワークシート ・視写プリント
指導	※8時20分にこどもたちを着席させ、朝読を開始させる。	「授業」という位置づけである。放任とならないよう、“指導”する。

(2) 図書館教育について

- ・図書館を効果的に活用した授業づくりを推進する。(調べ学習、探求学習)
- ・図書の実態と図書室や学年文庫等の学習環境を整備する。
- ・図書を活用した異学年交流を実施し、読書習慣の育成に取り組む。
- ・図書館だよりを通じて、保護者への啓発に取り組む。

(3) 家庭学習について

- ・家庭学習の内容や量、取り組む時間等、学年の実態を踏まえて系統的に指導する。
- ・家庭学習の習慣を身につけるための取り組みを進める。
- ・「チェックシート」を活用し、生徒指導部と連携してスクリーンタイムについても家庭へ協力を呼びかける。
- ・「家庭学習の手引き」を作成し、家庭との連携をはかる。また、家庭での学習時間の確保についてこども同士で交流し、改善していけるような取り組みをする。
- ・自主学習や、自分で計画を立てての学習の推進をはかる。

(4) 夏期休業中の補充学習について

- ・夏期休業中においては、2日間の補充学習を実施し、支援を必要とするこどもの基礎的知識・技能の向上をはかる。

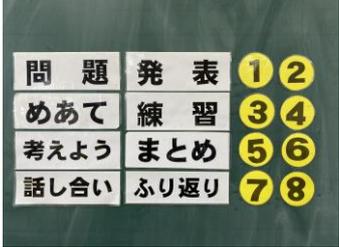
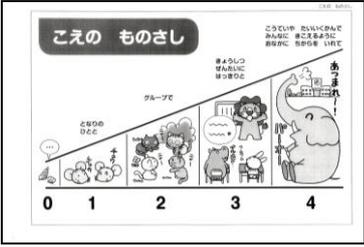
- ・ 学習ボランティアを活用して、学校と地域が協力して学習にあたる。

(5) ICT活用について

- ・ ICTを効果的に活用した授業作りを推進する。
- ・ 効果的なICTの活用のための職員研修を行う。

(6) 掲示について

- ・ 校内掲示板や階段、各教室などを活用し、国語科、算数科の学習用語や既習内容に関わるもの、こどものノート（学習の成果物）などを掲示する。
- ・ 全ての教育活動において言語活動を豊かにするため、学級の実態に応じて以下のものを掲示し、こどもたちに意識させるようにする。

<p>ユニバーサルデザインカード</p> 	<p>声のものさし</p> 
<p>発表の仕方カード</p>	
<p>せつめい上手な話し方</p> <p>① 「〇〇が～だったら、□□は…」 ② 「〇〇のときも、□□のときも～だったから、☆☆も…」 ③ 「〇〇は～だったから、□□は…」</p> <p>「〇〇さん、しつもんです。」 「もういちど、いってください。」 「〇〇さんに、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」</p> <p>「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」</p> <p>「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」</p> <p>「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」</p> <p>「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」</p> <p>「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」</p> <p>「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」 「〇〇さん、しつもんです。」</p>	
<p>話し名人・聴き名人</p>	<p>はかせどん</p>
<p>聴き名人</p> <p>話す人の目を見て 手・足・背中 姿勢よく 反応しながら最後まで 自分の考えと比べながら 分からないことを質問したり意見を述べたりする</p> <p>話し名人</p> <p>聞きやすい声で みんなの方を向いて 最後まではっきりと 相手の反応を見ながら</p>	<p>はやく かんたんに せいかくに どなたときも</p> 